

令和3年度 全国学力・学習状況調査

長野市の結果分析と 学力向上に向けて



第三期しなのきプラン 全体イメージ図

令和3年12月

長野市教育委員会

目 次

I	調査概要	
1	調査内容	2
2	調査対象	
II	調査別結果の概要	
1	教科に関する調査の結果概要	3
	(1) 小学校	
	(2) 中学校	
2	質問紙調査の結果概要	5
	(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況	
	(2) 国語の現状	
	(3) 算数・数学の現状	
III	本調査から見た「第三期しなのきプラン」の現状	8
1	知・徳・体を一体的に育成	
2	教職員の力量向上	
3	安全安心な学校づくりの推進	
4	GIGAスクール構想の推進	
5	学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担	
IV	「第三期しなのきプラン」に照らした今後の方向	12

I 調査概要 (令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に係る学校教育等への影響のため未実施)

1 調査内容

- (1) 教科に関する調査
 - ・令和3年5月27日(木)実施
 - ・小学校 国語 算数
 - ・中学校 国語 数学
- (2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査



2 調査対象

市立小学校6年生 54校 2,997人
 市立中学校3年生 25校 2,837人
 ※ 調査人数は、国語の実施人数を記載しています。

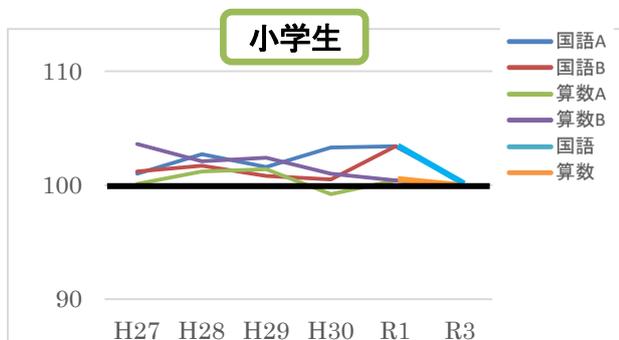
II 教科・調査別結果の概要

1 教科に関する調査の結果概要

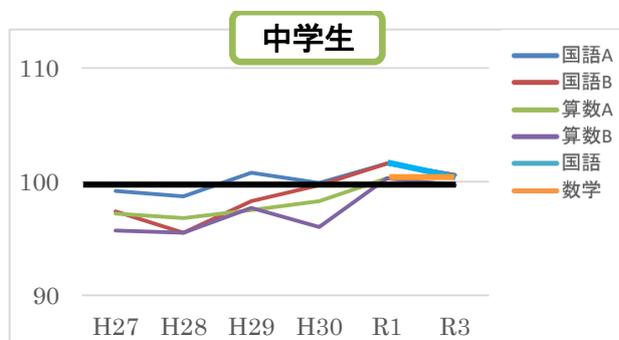
	小学生			本市及び長野県、全国の正答率(%)			中学生				
	長野市	長野県	全国		長野市	長野県	全国		長野市	長野県	全国
国語	64	63	64.7		65	65	64.6		65	65	64.6
算数	70	70	70.2		57	57	57.2		57	57	57.2

全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移(国語、算数・数学)

※令和元年から「知識A」と「活用B」を一体的に問う問題形式で実施。



これまでは全国平均を上回っており、今年度は、全国平均と同程度の正答率を維持しています。

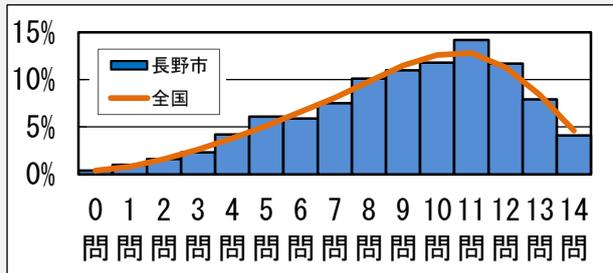


これまで全国平均を下回る傾向にありましたが、向上傾向が見られます。特に、令和元年からは全国平均と同程度まで改善しています。

(1) 小学校

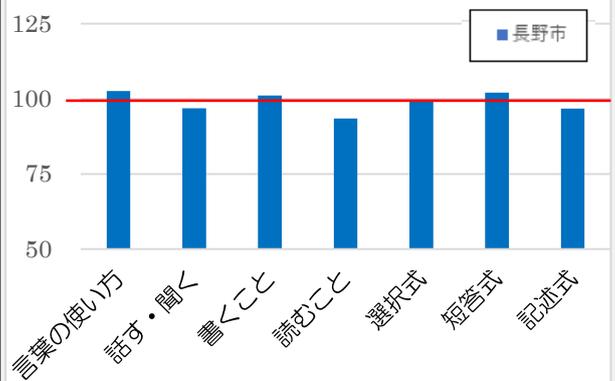
国語

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~5問正解) の児童の割合
全国 14.3% 長野市 15.6%
- 正答率 80%以上 (12~14問正解) の児童の割合
全国 24.3% 長野市 23.7%

【領域・問題形式別グラフ】 全国:100

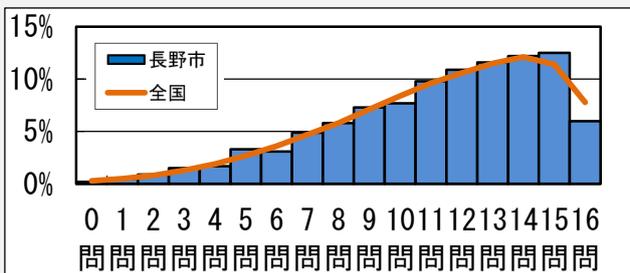


【領域・問題形式別の結果】

- ◇「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「書くこと」の領域では、全国の正答率を上回っています。
- ◆全体的に全国並みですが、「読むこと」の領域では、全国の正答率を下回っています。

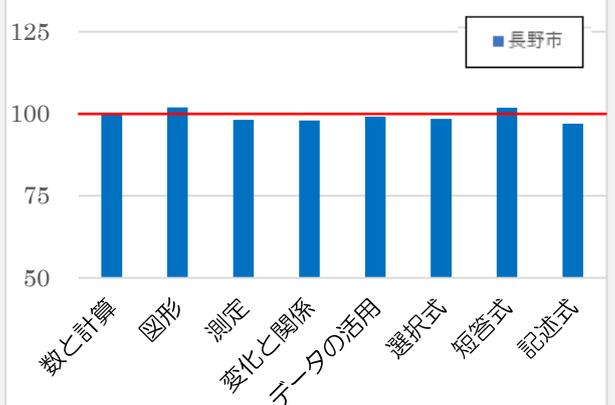
算数

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~6問正解) の児童の割合
全国 11.1% 長野市 11.2%
- 正答率 80%以上 (13~16問正解) の児童の割合は、
全国 42.8% 長野市 42.3%

【領域・問題形式別グラフ】 全国:100



【領域・問題形式別の結果】

- ◇「図形」の領域で、全国の正答率を上回っています。
- ◆全体的に全国並みですが、問題形式別では、「記述式」で全国の正答率をやや下回っています。

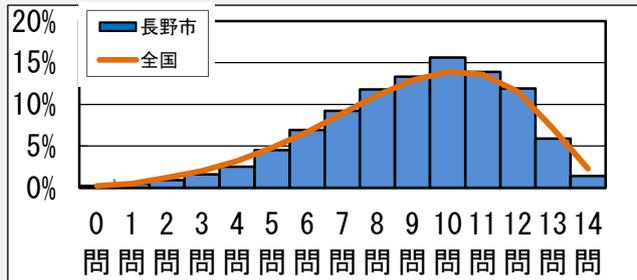
小学校の傾向から

○国語、算数ともに、正答数 40%以下の児童の割合と正答数 80%以上の割合は、全国とほぼ同程度です。
低位生をさらに丁寧に指導し、これまで以上に上位生を伸ばすことを大切にしていきます。
 ○問題形式別の正答率では、「短答式」で全国を上回っています。「記述式」で全国の正答率をやや下回っています。
多くの場面で、根拠を明確にして書くこと等、「記述式」でまとめる学習を大切にしていきます。

(2) 中学校

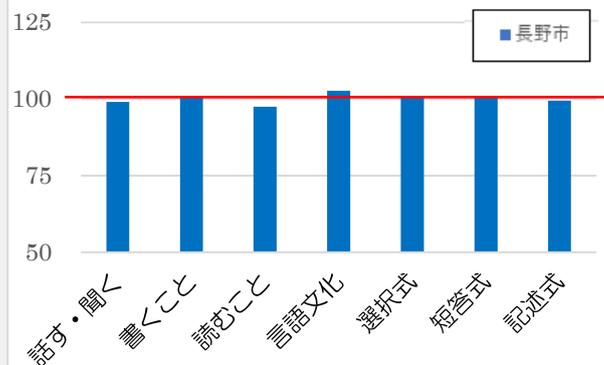
国語

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~5問正解) の生徒の割合
全国 11.9% 長野市 10.2%
- 正答率 80%以上 (12~問正解) の生徒の割合
全国 20.2% 長野市 19.2%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100

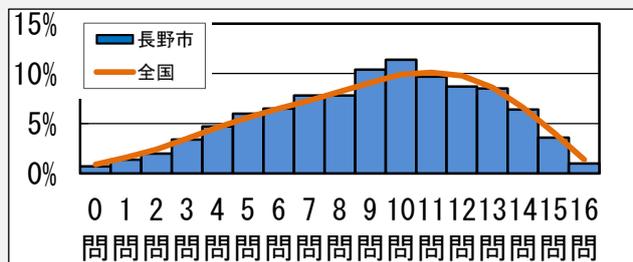


【領域・問題形式別の結果】

- ◇「書くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国の正答率を上回っています。他は、全国の正答率と同程度です。
- ◆「読むこと」の領域で、全国の正答率をやや下回っています。

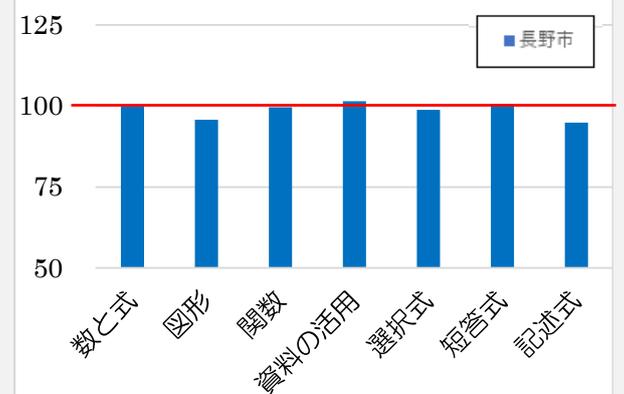
数学

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~6問正解) の生徒の割合
全国 25.1% 長野市 24.7%
- 正答率 80%以上 (13~16問正解) の生徒の割合
全国 20.7% 長野市 19.5%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100



【領域・問題形式別の結果】

- ◇「資料の活用」の領域で、全国の正答率を上回っています。
- ◆「図形」の領域と問題形式の「記述式」では、全国の正答率を下回っています。

中学校の傾向から

- 正答数の分布から、国語、数学ともに、正答率が 40%以下の生徒の割合が全国より低く、正答率が 80%以上の生徒の割合が全国より低くなっています。上位生をより伸ばす工夫をしていく必要があります。
- 問題形式別の正答率では、「短答式」で全国の正答率を上回っており、「記述式」で全国の正答率を下回っています。特に、数学で「記述式」が下回っています。ある条件の下で図形を動かしたとき、辺や角などについて、「いつでも成り立つ性質」を見付けて、表現する活動を充実させていく必要があります。理由や方法、事実の説明等、記述する場面を取り入れた授業づくりを大切にしていきます。

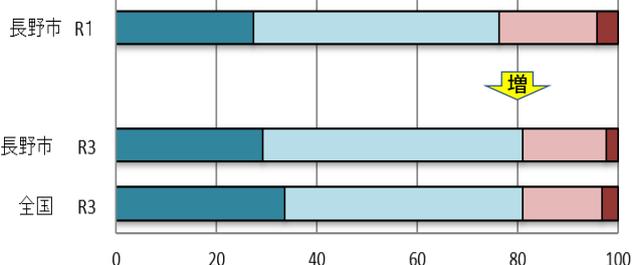
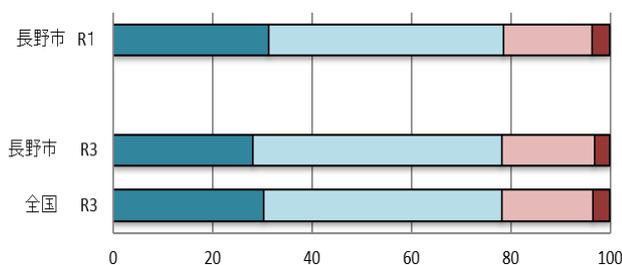
2 質問紙調査の結果概要

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況（児童生徒質問紙調査から）

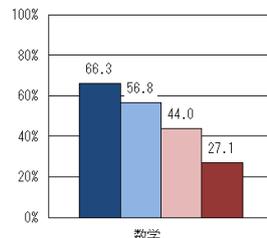
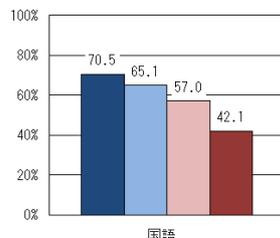
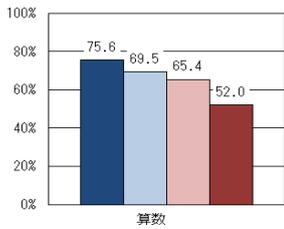
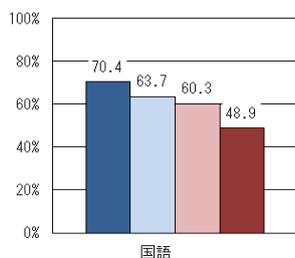
① 5年生（中学校1、2年生）のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

小学校

中学校



■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

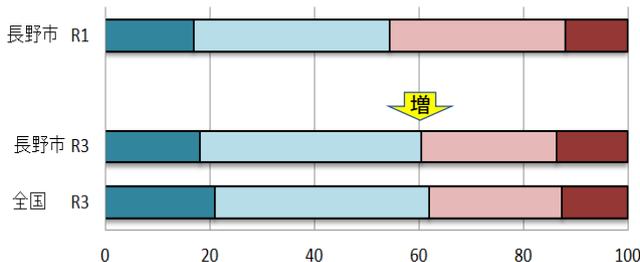
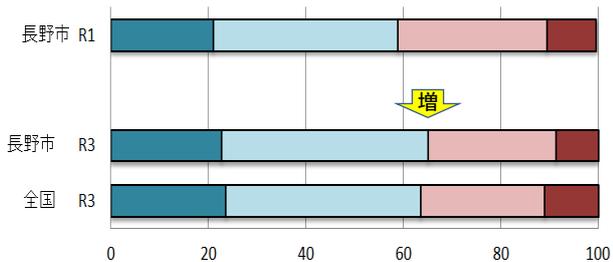


質問と長野市の平均正答率との関係（クロス集計）

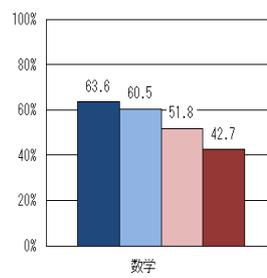
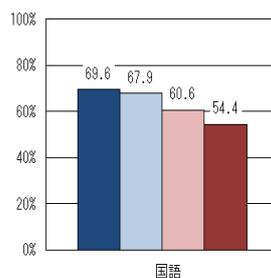
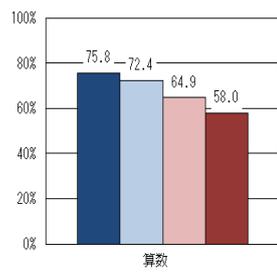
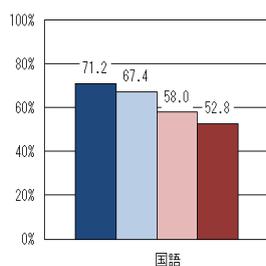
② 5年生（中学校1、2年生）のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

小学校

中学校



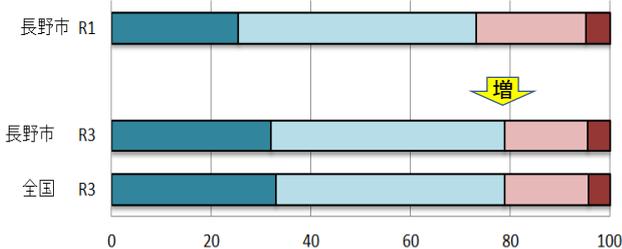
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない



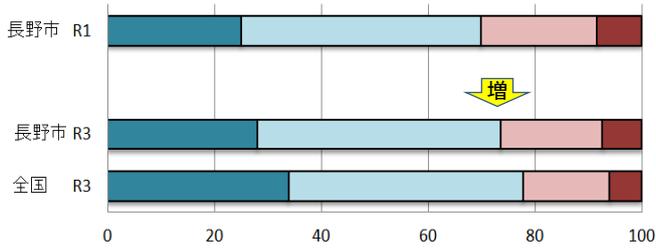
質問と長野市の平均正答率との関係（クロス集計）

③ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

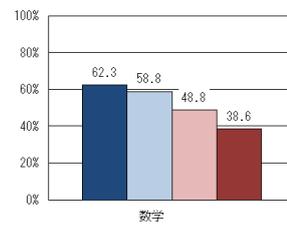
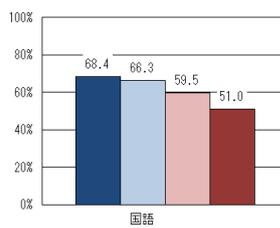
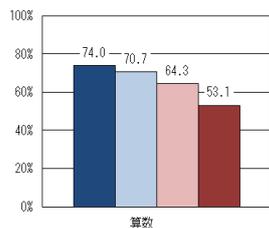
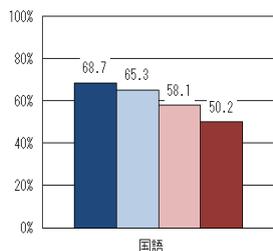
小学校



中学校



■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



質問と長野市の平均正答率との関係（クロス集計）

- 各質問について、小・中学校ともに「肯定的回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）」の割合は、令和元年度と比較すると、増加傾向にあり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進んでいる様子がうかがえます。
- クロス集計から、質問紙で肯定的な回答をした児童生徒は、学力調査（国語、算数・数学）の正答率が高いことが分かります。このことから、次の3つの場面について充実を図り、授業改善をしていきます。
 - ・児童生徒が課題をもち、主体的に課題を解決する場面
 - ・友との関わりの中で、自分の考えを工夫して表現する場面
 - ・児童生徒同士の対話を中心にした関わり合う場面

(2) 国語の現状

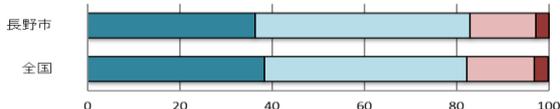
① 児童生徒質問紙調査の状況

肯定的回答が比較的高い質問

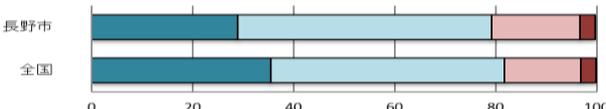
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

(47) 国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか

[小学校]



[中学校]

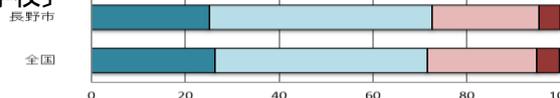


肯定的回答が比較的低い質問

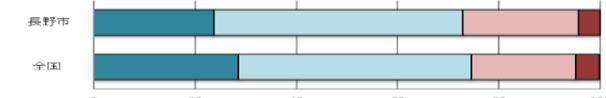
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

(49) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

[小学校]



[中学校]



②指導改善の方向

言葉の特徴や使い方についての肯定的回答は小・中学生いずれも80%を超えているため、学んだことを積極的に活用しようとしている様子がうかがえます。自分の考えとそれを支える理由を書くことについては、肯定的回答が70%前後であるため、国語の指導では、考えたことや学んだことを基に、伝える相手や条件を変えてまとめる等、目的に応じて表現することができるような展開を仕組んでいく必要があります。

(3) 算数・数学の現状

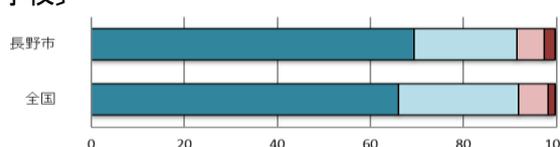
①児童生徒質問紙調査の状況

肯定的回答が比較的高い質問

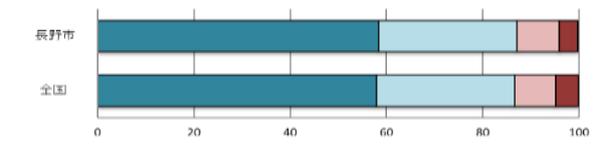
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

(59) 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

[小学校]



[中学校]

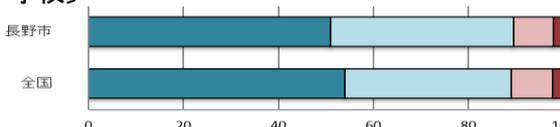


肯定的回答が比較的低い質問

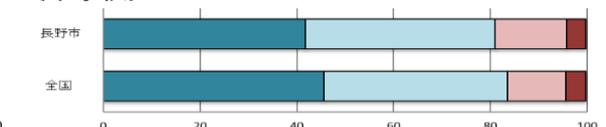
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

(58) 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

[小学校]



[中学校]



②指導改善の方向

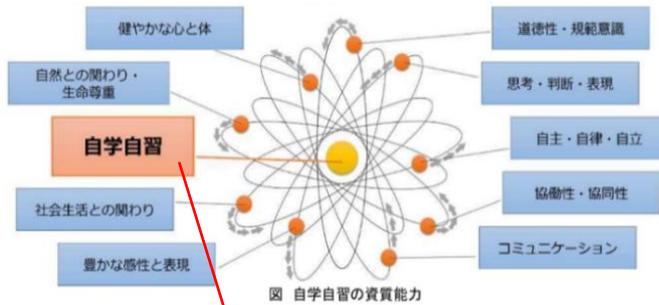
当てはまると回答した小・中学生が60%前後であるため、授業の中で、答えだけでなく、解き方や考え方をノートに書きながら整理していることがうかがえます。公式やきまりのわけを理解することについては、当てはまると回答した小・中学生が50%前後であるため、公式やきまりを導き出す過程や全体で比較する場面など工夫して、理解を図っていく必要があります。

Ⅲ 本調査から見た「第三期しなのきプラン」の現状

長野市では、平成 27 年 4 月に、「しなのきプラン 29」を9か年計画の第一期の3カ年計画として策定しました。そして、令和3年4月から、「第三期しなのきプラン」を実施しています。

第三期しなのきプラン

長野市教育の基本理念である「明日を拓く豊かな人間性の実現」に向け、教職員の力量の向上を教育活動の基盤と考え、学校、地域、家庭、事業所等の協働と分担の中で、「知・徳・体」を一体的に育成し、すべての子どもたちに「自学自習の資質能力」が育まれるための支援を行います。



「自学自習の資質能力」は、左図のように学齢期をとおして、一人一人の子どもの中に見だし・支え・育みたい姿を、「自学自習」の姿を中核に据えて整理したものです。

【自学自習の願う姿】

- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けようとする子ども
- 生活体験や興味・関心から課題を見付け、自分なりに方法を選択し、他者と協働しながら、見通しをもって解決に取り組む子ども
- 自分の生活体験や学習の状況を振り返り、新たな見通しを立てる、新たなやり方を見出す、自ら学び直しや発展的な学習をするなど生活や学習を調整し、自己肯定感・自己有用感を実感していく子ども

ここでは、質問紙調査をもとに、「第三期しなのきプラン」の現状を分析します。

- 取り上げた質問項目は、「第三期しなのきプラン」の評価指標としているものか、評価する上で有効と思われるものを掲載しました。
- 表中の値は、全国を 100 としたときの、長野市の肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計）の数値を示しています。（ ）内の数値は令和元年度の結果。
- 令和元年度と比較して3ポイント以上の差があったものを↑、↓として表しています。
- 103 以上は **水色** の塗りつぶし、97 未満は **ピンク** の塗りつぶしとして表しています。

(1) 知・徳・体を一体的に育成

児童生徒質問紙から、上記の「自学自習の資質能力」に関わるものを抽出して集計しました。

番号		質問事項	小学校	中学校	
(6)	自学自習	自分には、よいところがあると思いますか	102 (101)	96 (98)	
(17)		家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	101 (102)	93↓ (99)	
(33)		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	100 (101)	102 (102)	
(38)		学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	102	95	
(34)		思考・判断・表現 コミュニケーション	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	101	90
(15)			自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	97	95
(37)			学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	100 (99)	95 (96)
(42)			道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	104 (102)	95 (94)
(11)	規範意識・社会生活との関わり	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100 (100)	100 (101)	
(10)		人が困っているときは、進んで助けていますか	101 (100)	99 (99)	
(25)		地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	111↑ (105)	110 (108)	
(7)	自主・自律・自立 健康な心と体	将来の夢や目標を持っていますか	100 (99)	100 (98)	
(9)		難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	101 (101)	101 (101)	
(4)		携帯電話・スマートフォンコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	104	102	
(5)		普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ・携帯電話・スマートフォンも含む）をしますか（2時間未満の割合）	120	126	
(1)		朝食を毎日食べていますか	101 (102)	103 (102)	
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	103 (104)	102 (102)		
(16)	協働性 協同性	友達と協力するのは楽しいと思いますか	100	99	
(40)		あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	93↓ (100)	93↑ (86)	
(14)	豊かな感性と表現	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	98	97	

- 「自学自習」に係る質問のうち、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問では、小・中学校ともに全国並の結果となっています。他の質問の肯定的な回答では、中学校において全国を下回る傾向があり、自分の学びを振り返ることで次の学習への意欲をもち、見直しをもって解決に取り組むことができるような指導がさらに必要と考えます。
- 「コミュニケーション」に係る質問の肯定的な回答では、中学校において全国を下回る傾向が見られます。生徒同士をつなげ、多様な考えに触れたり、様々な立場で考えたりする等、対話的に学ぶ機会を多くとることが必要と考えます。
- 「社会生活との関わり」に係る質問のうち、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問の肯定的な回答では、小・中学校ともに全国を大きく上回っています。自然や社会、人とのつながりを見出しながら探究する総合的な学習の時間の成果が表れているものと考えられます。
- 「自主・自律・自立」に係る質問のうち、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問の肯定的な回答では、これまで全国を下回る傾向にありましたが、本年度は小・中学校ともに全国と同程度まで増加しました。「しなのきプラン」第一期から重点として取り組んできたキャリア教育の視点を取り入れた教育課程の編成や授業づくりを大切にしてきた成果だと考えられます。

(2) 教職員の力量向上

学校質問紙から教職員の「カリキュラム・マネジメント力の伸張」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(18)	指導計画作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標達成に必要な教育内容を組織的に配列している	102 (101)	110 (110)
(19)	児童生徒の姿や地域の現状等に関するデータ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	105 ↑ (97)	108 ↑ (103)
(20)	指導計画作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外的資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている	100 ↓ (104)	109 (110)

- 全体的に肯定的な回答が全国を上回っており、教職員の授業改善への意識が高いことが分かります。職員研修や指導主事訪問の成果であると考えられます。
- 全国に比べ、授業改善に向けたPDCAサイクルが確立されており、NRTや全国学力・学習状況調査を積極的に授業改善に活用している様子がうかがえます。引き続き、指導主事による学校訪問支援等により各校のPDCAサイクルを見直し、さらなる充実を図っていきます。

(3) 安全安心な学校づくりの推進

児童生徒質問紙から「新型コロナウイルス感染症の影響」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(65)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	105	96
(66)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	105	103

- コロナ禍においても小・中学生ともに「規則正しい生活」を送ることができました。休校期間中の計画的な学習についての肯定的な回答は、小学校が全国を上回り、中学校が全国を下回りました。休校期間中、小学校では、家庭で取り組む課題を示すことに合わせて、計画づくりを丁寧に指導されていたことがうかがえます。中学校では、計画づくりも含め、個に応じて丁寧に指導することが必要と考えます。

(4) GIGAスクール構想の推進

児童生徒質問紙と学校質問紙から「ICTを活用した学習状況やICT環境の整備」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(28) 児童生徒	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか（肯定的な回答）	98	98
(65) 学校	コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、校務改善を行うための準備ができていますか	110	106
(66) 学校	前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラスあたりどの程度行いましたか（週1回以上）	98	100
(68) 学校	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	94	107

- ICT機器の学習への活用について有効と捉えている児童の割合は、概ね全国並みです。引き続き、小・中学校ともにICT機器の効果的な活用を一層推進することが必要です。
- ICT機器の研修機会の肯定的な回答では、小学校において全国を下回り、中学校において全国を上回っています。本市では、1人1台端末は、昨年度、中学校から先に配備されたため、中学校の教職員が積極的に研修に参加したと考えられます。

(5) 学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

学校質問紙から「学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(77)	前年度までに、近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	97↓ (117)	111↑ (106)
(80)	職場見学や職場体験活動を行っていますか ※「行っている」回答を集計	126↑ (87)	103 (101)
(81)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	99 (99)	115↑ (111)
(82)	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	103 (102)	98↓ (111)
(83)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(82)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	126↑ (122)	126↓ (142)
(84)	(82)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	106 (105)	111↑ (109)

- 肯定的な回答が全国や昨年を上回る質問が多くあり、学校において、有効な取組となっています。
- すべての学校で、学校運営委員会を設置し、学校と地域が継続して連携していくための仕組みが整っており、コロナ禍においてもコミュニティスクールの取組が工夫して行われていたものと考えられます。引き続き、学校、保護者、地域住民等が子どもの育ちについて共に話し合い、それぞれの役割を明らかにしながら協働・分担していきます。

Ⅳ「第三期しなのきプラン」に照らした今後の方向

重点取組

知・徳・体を一体的に育成

- 小学校では、低位生をさらに丁寧に指導し、これまで以上に上位生を伸ばすことを大切にしていけます。授業の多くの場面で、根拠を明確にして書くこと等、記述形式でまとめる学習を大切にしていけます。
- 中学校では、上位生をより伸ばす工夫が必要です。数学では、理由や方法、事実の説明等、記述する場面を取り入れた授業づくりを大切にしていけます。
- 「自学自習」に関わって、特に中学校において、自分の学びを振り返ることで次の学習への意欲をもち、見通しをもって解決に取り組むことができるような指導がさらに必要です。

徳
知 体

教職員の力量向上

- 指導主事による学校訪問支援等により各校のPDCAサイクルを見直し、さらなる充実を図っていきます。

力量

安全安心な学校づくりの推進

- 休校期間中は、小・中学校ともに、計画づくりも含め個に応じて丁寧に指導することが必要です。

安心

G I G Aスクール構想の推進

- 小・中学校ともにICT機器の効果的な活用を一層推進することが必要です。

ギガ

学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

- 学校、保護者、地域住民等が子どもの育ちについて共に話し合い、それぞれの役割を明らかにしながら協働・分担していきます。

協働



「第三期しなのきプラン」に位置付けている取組の中から、以下について一層の充実を図ります。

【知・徳・体を一体的に育成】

- 全国学力・学習状況調査やNRT等の分析を生かした指導改善
- 学習支援ソフト等の効果的な活用研究
- 教育センター研究委員による研究推進

【安全安心な学校づくりの推進】

- 学校の保健管理体制の向上

【G I G Aスクール構想の推進】

- ICTの環境整備とサポート体制の充実
- 不登校生が教室以外の居場所で学習を行える環境づくりと支援体制の充実

【教職員の力量向上】

- 指導主事による学校訪問支援
- 子どもがICTを効果的に活用できるようにするための研修の実施

【学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担】

- 長野市コミュニティスクール事業の推進